



向島学会 平成17年度第2回交流のサロン 「向島学会のNPO法人化について」

日時：平成17年7月23日（土）午後2時から5時
会場：すみだ生涯学習センター別館3F 多目的室（東向島2-28-5）

プログラム

- (1)「向島学会のNPO法人化」
 - 1) 墨田区のNPO支援について
 - 2) NPO法人格取得のポイント
 - 3) 向島学会NPO法人化検討部会報告
 - 4) 意見交換
- (2) 諸報告
 - 1) 向島学会のホームページについて
 - 2) 全国都市再生会議について
 - 3) 向島大学講座について
 - 4) 全国路地サミットと路地園芸プロジェクト
 - 5) その他



第3回全国路地サミット神楽坂大会「路地サミット in 神楽坂」
 「もてなしの路地、しつらえの路地 - 路地からまちの未来を考える」
 10月8日（土）14:30 開場
 場所：神楽坂エミール(第1部、第2部とも)

- ・第1部：路地シンポジウム
 - 基調講演 西村幸夫（東大教授）
 - 講演 岡本哲志（岡本哲志都市建築研究所）
- 路地シンポジウム
- ・第2部「懇親交流会」
 - 路地スライドショー：中里和人
 - 路地園芸コンペの中間発表 ほか

問合せ先：NPO法人粋なまちづくり倶楽部 事務局(担当：山下)
 tel：03-3260-6260 email：ikimachi@syoutengai-web.net



<http://www.mukojima.org/>

発行 向島学会
代表 高木新太郎

郵便振り込み
00130-7-723191 向島学会

PS.04年末に振込先が上記に変わりました。ご注意ください。

入会金 3,000円
(学生会員 1,000円)
月会費 500円
(学生会員 100円)

PS.会費は平成17年度総会で上記に改正されました。

申し込みば 交流サロン、やHP等でも受け付けます。

仲間になりませんか！

向島学会では、会の目的に賛同し、活動に主体的に参加するとともに、活動の成果を会に提供する個人を対象に会員を募っています。会員2名の推薦が必要ですが、交流サロンなどに参加していただき、その後、会員に申し込まれることをお勧めします。

目次
平成17年度第2回交流のサロン』
向島学会のNPO法人化について
その他の報告

7月23日(土)平成17年度第2回交流のサロンが開かれました。

NPO法人化を視野に入れている、まずはNPOについて学んでいきます。

報告 平成17年度 第2回交流の サロン

向島学会 NPO法人 化に向けて

NPO法人化について

(1) 向島学会のNPO法人化の必要性について

(現状の主な問題点)

- ・地元でも向島学会がどのような団体かあまり知られていない。墨田区役所でも同様
- ・対外的に提案する際、現状では向島学会の趣旨や性格を説明することが難しい
- ・「仲良しクラブ」のままでは、持続しないし、活動を広げにくい

(NPO法人化の必要性・メリット)

- ・団体理念(ミッション、社会的使命)が明確になる
- ・常にチェック機能が働き、社会的信用性が高くなる
- ・銀行口座の開設、不動産の登記や賃貸等を法人名でできる
- ・行政機関や民間企業等から委託業務や補助事業等が受けやすくなる

(2) 向島学会の位置づけについて

- ・向島地域の資源や資料について収集・整理・提供する団体(データアーカイブ団体)
- ・向島地域の課題について検討・提案する団体(まちづくり提案団体)
- ・向島地域のアート&まちづくり等の活動を支える団体(まちづくり中間支援団体)
- ・公共団体や企業の活動を補完する団体(まちづくり補完団体)

(3) NPO法人向島学会の組織運営の基本方向について

- ・身の丈にあった組織運営と事業展開。基本的には収益事業を行わない方向で運営する
- ・総会主導型ではなく、理事会主導型。ただし、会員に必要な情報を提供することが前提条件
- ・会計処理や税務処理について専門知識を持つ人材の確保・育成(必要に応じて委託)
- ・会員の持つ専門性や向島学会の研究機能を活かす
- ・5年後を目標に、アーカイブ事業を受託できるようにする

検討メンバー：佐原滋元、渡辺慎一、友野健一、遠藤裕子
 向島学会NPO法人化検討部会報告(概要) |
 山本俊哉(以上、向島学会担当理事) 文責：山本

学会内のNPO法人化検討部会で事前に検討された課題が資料として提出されました。

交流サロン記録

NPO法人化について



今後のNPO法人化実施に資するため、議事録を残しておきます。

上紙：墨田区にもNPO支援担当が今年から出来ました。担当の上紙です。今日はNPO支援担当ができたこと挨拶とNPO支援事業のご案内。現在都内にはNPOが4354(6月30日現在)ありますが、墨田区には35(都認証)と少ない状況。区としても、阪神淡路大震災でのボランティア革命ともいえる時代の流れの中で出てきた地域活動の新しいスタイルとしてNPOを支援していきたいと考えています。自治体の支援としてはこれまで補助金スタイルが多かったが、NPO等多様な価値観を持つ団体に対して単なる補助を出す方法は逆に公平性に欠ける一面もでてくるということもあります。

また、今2007年問題と言われているように、団塊の世代が定年を迎え地域に戻ってきたとき、墨田区は町会などの地縁活動がしっかりしているほうですが、それでも、それだけたくさんの人達が地域に戻ってきたときの体制ができていくかということもあります。新たに地域に戻ってくる人達が地域の大きな活力となるように、NPOがひとつの選択肢となるよう考えています。

さらに、他地域の大きなNPOにそのような活力が吸収されないように、墨田区の中でNPOが育つてほしいということもあります。

そのような経緯で、アドバイザー制度をつくりました。アドバイザーは、現在11人、社会保険労務士や行政書士、またNPO立ち上げの経験やコミュニティビジネス等を育成してきた人達です。都への認証申請や法人登記などのサポート等をお願いしています。6回派遣してその費用を区が持ちます。

(大川さんの紹介・多摩大学講師で、NPO経営コンサルタント。6月の法人化部会で向島学会と初顔合わせをした) また、アドバイザーの派遣申請は向島学会を含め現在4団体から要請が来ています。制度としては順調なすべり出しと思っています。そのほかNPO支援担当としましては10月22日(土)にはシンポジウムを考えています。日本NPOセンターの山岡先生に講演をしていただきます。また、設立後間もないNPOの活動場所として旧文花小の校舎の一部を活用する予定です。

区の自治振興、女性課のNPO支援 (17年度)

1. アドバイザー派遣
2. シンポジウム
3. 場所の提供

↓

Incubation

墨田区NPO支援アドバイザー派遣制度

佐原：今年度はNPO化に向けて、準備を進めるということとで、法人化の検討部会を立ち上げていますが、NPO化と法人化へのポイントを大川さんに説明していただきます。

大川：「NPO法人格取得のポイント」について (別紙資料にそつての説明要旨)

- ・ コミュニティビジネスを提唱したのは細田先生。
- ・ NPO 民間非営利組織・非営利分配組織 / Non Profit Organization
- ・ 通常は株主に利益を分配するが、NPOは分配できない
- ・ アメリカから来た言葉

佐原：前回のNPO部会の報告を渡辺さんから。渡辺：NPO化は、自分たちの活動目的を明確にする単なる手法である。

問題は、向島学会は町の中であまり知られていないこと。つくるかつくらないかを会ではまだ議論していない。

佐原：手続的に確認をし、位置付け等の合意が必要。(別紙資料)(3)の基本方針、大きなお金の動き。助成金のプロジェクトをベースにしては、安定性がない。何を基本にするかを議論する必要がある。向島大学等のリスクともわかっていない。法人化していきながらのデメリットとして、郵便振込みの口座を向島学会の代表が変わる度に変更しなければならぬというのがあるが、法人化されればそれをしなくてすむ。助成金はNPOでなければダメというのを、半分くらいある。NPO法人化しようという方向になつていりますが、メリット・デメリット等で意見・質問があればいつでもください。

大崎：NPOの会員ではないのですが、台東区のグループホームのお金の受け手としてNPOがあり、グループホーム運営に継続的に生かされています。向島学会の場合は金銭的な流れでない、別の流れが必要。現場でNPOとして困ったことはないが、NPOの現状では、大きな年間事業活動があつても、銀行では500万円くらいしか貸してく

多摩大学講師：大川氏 資料
NPO法人格取得のポイント

1. NPO（民間非営利組織）の定義（略）
2. NPO法（特定非営利活動促進法）とはなにか（略）
3. NPO法人をつくるには
 - (1) 10人の会員（NPO法上の社員）がいること
 - (2) 3人以上の理事と1人以上の幹事をおく（役員1/3以下しか役員報酬はもらえない）
 - (3) 17の分野のうち最低1つは該当すること
 - (4) 営利分配をしない
 - (5) 政治や宗教活動をしない
 - (6) 毎年度、事業報告や会計報告を情報開示する
 - (7) 定款をつくる
4. NPO法人の17分野（略）
5. NPO法人の所轄庁（略）
6. NPO法人取得のメリット（略）
7. NPO法人取得のデメリット
 - (1) 事業報告書や決算報告書などの情報開示の義務がある
 - (2) 法人税の均等割7万円を支払う
 - (3) 銀行から融資を受けられない

墨田区自治振興・女性課NPO
支援担当：上紙氏
「墨田区のNPO支援について」



多摩大学講師：大川氏
「NPO法人格取得のポイント」

曾我：会計士さんを雇う費用はどのくらいですか？
岡田：いらなと思う。
曾我：現状スタイルをそのままNPOにシフトでき、費用がかからないのであれば、目的が明確化され、教室が借りられる等のメリットがあれば、7万円払っても良い。あと理事の10人に特別負担等がかからないければ。
司波：神楽坂の「粋なまちづくり倶楽部」では地元建築事務所がかなり負担してくれていて、活動資金は任意団体ではなかなか貸してくれなかったが、路地シンポジウムが出来るくらいの資金もできる。資金力はないがNPOなのでできる。会費は12000円。日本都市計画家協会が一番困ったのは広報。今はHPで済む。神楽坂は最近の出来事の更新ができない。
佐原：HPであれば、向島学会のHPをデータベースにしたいと思っている。PDF機能が進んできたので今後は良い。ゆるゆるとお金を動かしてきたものが、NPOにするのでなくなる。源泉についての調査が税務署から入ったりするので、寸志等の扱いも出なくなる。
伊藤：会計処理はなんとかなると思う。
佐原：「すみだ学習ガーデン」では会計ソフトで税理士さんが年4回はいつまでかかっている。
司波：それでも誰かやるのか問題。
佐原：伝票はきちんとした方がよい。
藤野：NPOで何をやるのか。内部でもう一度、これまでやってきたことのセットが必要。
佐原：これまではイベントが多かった。基本的には無理せずできることを。資料の等については、どのようなお金か、登録制にするのか。この部分についてはもつと議論が必要。これはNPO化の手続きと平行してやっていくべき。HP・大学講座について、もう定着していくのか。どのように事業展開していくのか。メリットとデメリット、骨組みをきちんとしていく。具体的にメリットとしては、空き教室が借りられる。共同事務所として使えば良いが、場所が遠いと、PCが使えないとかのデメリットもあるかもしれない。ただ、事務所機能が必要であれば、良いのではない。イベントの受付等の時にも良い。備品の置き場もできる。区の方で使わせてもらえるときにエントリーはできる。今日もアドバイザーが来てくれて、区としては準備段階の団体として認識してもらっている。あとは中身の吟味。
司波：活動メニューを作っておいた方がよい。理念だけではだめ。神楽坂では町内の古老に聞くといいのがある。地域の歴史の掘り起こしている。お金のかららない活動が2、3必要。年2回くらいの定期活動を入れる必要もある。
藤野：主体的に提言出来る団体とするのか、それともプラットフォームか。
曾我：交流サロンもそうだが、何をやるのか問題は残る。

アートイベントがまちづくりか、これまであまり定義のないまま来た。予算も綱渡りの的になって来た。いつもイベントが先に走り始めている。形が決まらないうままやってきた。これはイベントをやりたい人が多いせいもあるが、これまではプラットフォームの要素が多い。それでこれまでやってきている。
佐原：これほど事業計画をつくりにくい団体もない。ある意味ではいろいろんことあり過ぎて、ある意味では何も無い。中身についてもいろいろあるよ。だが、交流サロン以外のベラスになるような活動が見えない。
司波：もつと見えて来るような活動が必要。
佐原：学会は墨田区役所にも認知されていない。知らない人にも嫌われてる。今後、基本的な議論が必要。
友野：外から見たときに、あれをやつてる所ねみたいなものが必要なのでは。
藤井：NPO法人化は大儀名文であり必要だと思いが、NPO化して、有効に動いているところが少ない。利益をあげちゃいけないという法人団体であるために、それ以外に利益を上げる方向も考えた方がいい。NPO法人化をとりながら、それを仕事に生かすとか。
伊藤：NPO法人も利益を上げていい。収益事業を特別会計に分ければよい。
佐原：委託事業を受けると常駐しているスタッフが必要になるが、事業がないときどうするかが問題になる。プラットフォームの規模が大きい方が、何人も人を雇うと大変。委託事業の規模が大きくなるほど大変になる。
藤野：NPO化で規模を大きくすると思わないほうがいい。今のままNPOに動く。
佐原：実行委員会のような存在と考える。
司波：NPO化の立ち上がりでは、会費等の問題で規模の縮小が起こる。
藤井：利益を上げないと資本がある。
佐原：利益を上げなくていい。収入と支出が循環すればよい。
曾我：規模を大きくしなくていい。
伊藤：今のまま動かし税金等がかかるか、あまり気にしなくていい。このまま名前が変わるくらいの考え方で。
司波：今のままでもいい。
大崎：今のままやっていて、対外的に見せないといいけない。NPOだと補助金を受けやすくなるというイメージを持たれたら困る。耐震改修をNPOでやっているところもあるから、区でもどのような位置付けにするかははっきりさせる必要がある。
佐原：NPO化することでの当会へのメリット等は検討委員会への宿題とします。

諸報告

向島学会のホームページ

(報告：友野・古橋) 現在進行形のホームページリニューアルが報告されました。文字の大きさについて、また、個人情報取り扱いに関する文言、ネットマナーに関するお願い事項、最新情報や活動を伝える「トピックス」のようなコーナーがあれば、といった意見が出ました。

なお、8月25日に友野氏からリニューアル新装お披露目の案内がありました。「たいが、予定より遅れましたが・・・」今までのホームページの情報をベースに最新のイベントやイベントの様子(結果)を掲載しております。今回のリニューアルでは、ブログというツールを使っています」とのこと。



先日のキラキラ橋商店街のエイサーの写真
<http://www.mukojima.org/mt/archives/2005/07/post.html>
 最新情報として、「向島大学」第1期講座「向島まちアート創造プロジェクト」
<http://www.mukojima.org/mt/archives/2005/08/aaaaaaaaaaaaaee.html#more>
 の情報も載せました。

全国都市再生まちづくり会議
 向島学会として会議に参加します。第1日目の交流会6:アートのまちづくり交流会(会場:28F A2814)に、NPOアートチャレンジ滝川、ベネッセアートサイト直島と一緒に発表します。2004年度に古橋さんが作成した『向島CM』を公開します。ポスターセッションにも。

第1日全国まちづくり展 8月6日(土)
 東京・工学院大学(東京・西新宿)
 ポスターセッション「新宿屋台村」
 まちづくり交流会「知恵の交流」
 (終了報告)8月6日(土)無事終了しました。分科会形式の交流会では、学会からの報告者として、古橋さん、曾我さんが発表し、向島学会関連から15人ほどの方が見に来てくださいました。参加グループは、活動内容だけでなく阻止区や事業的な面でも特色あるチームがそろったため、かなりつつこんだ議論ができました。詳しい報告は今後(予定)に。

http://www.mmjp.or.jp/jsurp/zenmachi/zenmachi_top.htm

向島大学講座

(報告：曾我) 向島大学の第1期講座案が出ました。これにもとづいて、9月4日からいよいよスタートします。なお、関連して、AIGすみだコミュニティ・プログラム」の助成を受けることができました。

(趣旨)
 東京の下町・墨田区向島で、アートを活かしたまちづくりを積極的に支援する「向島学会」。この秋より「向島大学」と銘打って、誰もが気軽にまちづくりについて学ぶことのできる講座シリーズを開講することになりました。

「向島大学」第1期講座
 「向島まちアート創造プロジェクト」
 この講座では、向島を舞台に展開する演劇プロジェクトや音楽イベントなどを通して、受講者にアートとまちづくりを体験的に学んでもらいます。向島学会のメンバーのほか、アーティストやまちづくり関係者をゲストに迎え、多彩なプログラムを提供いたします。詳細はHP(上記)から。

体験学習編「向島を読む」
 この秋、向島のまちで演劇公演「ふたつの向島 東京」尾道」を開催する劇団「トリのマーク」(仮称)をゲスト講師に迎え、まちとそこに住む人々の記憶を新たな視点で読み解き、再発見してゆくアートプロジェクトの方法について学びます。

第1回 9月4日(日) 向島オリエンテーリング
 第2回 9月24日(土) 東京・尾道交流展&まちづくり交流会「ふたつの向島場所の引力」
 第3回 9月25日(日) リーディング公演見学+地域再発見まち歩き
 第4回 10月29日(土) ダブルレクチュア+トークセッション



<http://www.bananawani.org/tori/>

ふたつの向島 東京・尾道
 (報告：曾我・真野) 劇団「トリのマーク」(仮称)による東京・墨田と広島・尾道を結ぶアートプロジェクトが始まります。それにあわせて広島県尾道への視察と交流の様子が報告されました。

東京の向島では、9月3/4日に「記憶採集ふたつの向島」東京の向島オリエンテーリングが、「船を下りたら、夕暮れの向島を散策」読む地図」があなただをナビゲートしてくれま。ところどころのポイントで、休憩したり、次の場所へのヒントをもらったり、「水と魚の記憶」の思い出を書いたり、ゆったりと向島の町を楽しんでください。

もう一つの尾道・向島では、9月11日・18日に、「記憶採集ふたつの向島」尾道の向島へのオリエンテーリングがあります。

『夏の夕暮れ、尾道の町を歩きます。たくさん井戸、水にまみれる記憶のある場所をたどり、やがて向島の見える場所へ...。さかなおとこはどこにいますのでしょ。

東京での展示は、9月23日/10月2日、「フルハウス」にて。

(報告：長谷川 SONOTA)
 「向島まちづくりワークショップ」の動画が紹介されました。ブログにアップされています。ぜひ実物を。

今回も学生など新しい人の顔が...

